

ワンヘルスについて

【調査の目的】

新型コロナウイルス感染症をはじめ、SARSやMERSなど新興感染症の多くは人と動物の双方に感染する「人獣共通感染症」です。この人獣共通感染症は、人口増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化、これらに伴う生態系の劣化や気候変動等によって動物と人との関係性が変化したために、元々野生動物が持っていた病原体が様々なプロセスを経て人にも感染するようになったとされています。

このように、人と動物、そしてそれを巻き巻く環境は、生態系の中で相互に関連し、影響し合っており、人の健康を守るには、「人と動物の健康と環境の健全性是一つ」と捉え、一体的に守る取り組みが必要となります。これが、「ワンヘルス (One Health)」の考え方であり、近年、世界的にその取り組みが進められています。

県では、これまで「ワンヘルス」の考えの普及啓発や医療・獣医療など関係者の連携強化を目的としたシンポジウム開催など、「ワンヘルス」の推進について、様々な取り組みを行ってきました。

また、令和2年12月県議会において、議員提案により全国で初めてとなる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が制定されました。

そこで、今後より一層の取り組みを進めるに当たり、「ワンヘルス」について皆さまのご意見をお聴かせいただき、事業及びその評価などの参考とさせていただきます。

(保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室)

問1 あなたは、「ワンヘルス」とは何か知っていましたか。

(n=360 選択は1つのみ)

【年代別】

選択肢	回答数 (人)	割合	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	2	0	0	0	0	1
2 知っている	10	2.8%	1	1	2	2	3	1
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	10	12	13	13	9	9
4 全く知らなかった	281	78.1%	52	68	59	46	41	15
合計	360		65	81	74	61	53	26
「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合 (1～3と回答した方の割合)	79	21.9%	20.0%	16.0%	20.3%	24.6%	22.6%	42.3%

【男女別】

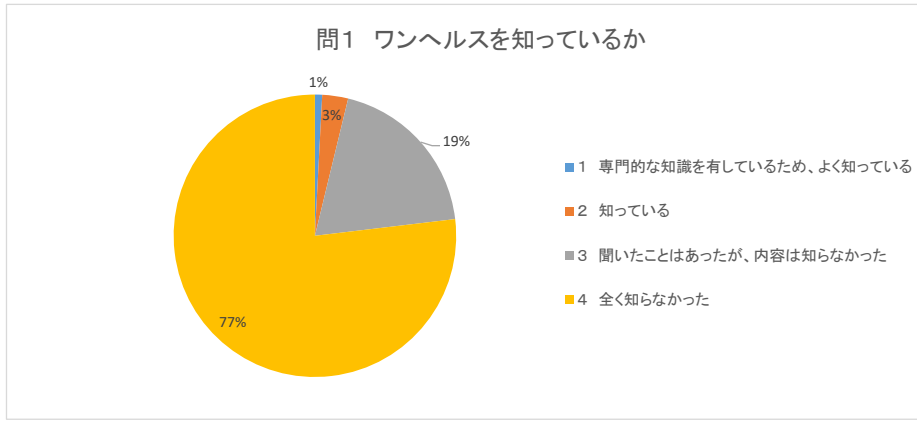
選択肢	回答数	割合	男性	女性	その他
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	2	1	0
2 知っている	10	2.8%	3	7	0
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	24	41	1
4 全く知らなかった	281	78.1%	124	157	0
合計	360		153	206	1
「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合 (1～3と回答した方の割合)	79	21.9%	19.0%	23.8%	100.0%

【地区別】

選択肢	回答数	割合	北九州	福岡	筑後	筑豊
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	3	0	0	0
2 知っている	10	2.8%	2	4	1	3
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	18	29	12	7
4 全く知らなかった	281	78.1%	67	144	43	27
合計	360		90	177	56	37
「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合 (1～3と回答した方の割合)	79	21.9%	25.6%	18.6%	23.2%	27.0%

【経年比較】

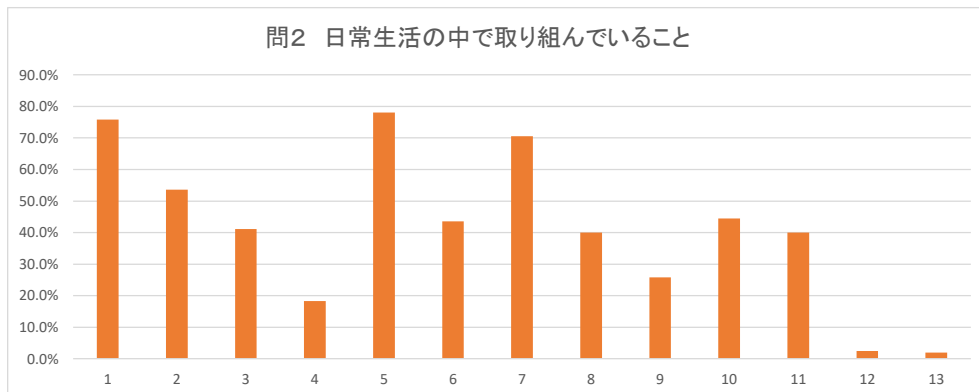
選択肢	令和3年度		令和2年度	
	回答数	割合	回答数	割合
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	1	0.3%
2 知っている	10	2.8%	17	4.5%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	64	16.9%
4 全く知らなかった	281	78.1%	297	78.4%
合計	360		379	
「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合 (1～3と回答した方の割合)	79	21.9%	82	21.6%



問2-1 県では、ワンヘルスに関する施策として、「人獣共通感染症対策」の他にも薬剤耐性菌（抗生物質等が効かなくなった細菌）の発生防止のための「医薬品等の適正使用」、「地球環境の保全」「人と動物の共生社会づくり」などを推進しています。これらの施策に関して、あなたが、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。

(n=360 複数選択可)

選択肢	回答数	割合
1 動物に触れた後は、手洗いをし、清潔に保つ	273	75.8%
2 ペットに口移しで食事を与えるなど、過剰な接触を避け、人と動物の共通感染症にかかることを防止する	193	53.6%
3 病院や薬局で処方された抗生物質は、すべて飲み切り、薬剤耐性菌を生む要因の発生防止に貢献する	148	41.1%
4 移動の際はできるだけ公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献する	66	18.3%
5 買い物の際にはレジ袋をもらわず、エコバッグを持参し、マイクロプラスチックによる海洋汚染の防止に貢献する	281	78.1%
6 登山や里山など野生動物が多く生息するような環境に出かける際は、マダニ等に咬まれないようにするため、長袖、長ズボン等を着用し、肌の露出を少なくしている	157	43.6%
7 野生動物にはむやみに近づかない、餌付けをしないなど、適正な距離を保つことを理解している	254	70.6%
8 ペットを飼う場合は、その健康管理を行うとともに、飼育環境を清潔にする、散歩中の糞は持ち帰る等、他人に迷惑を掛けないよう適切に管理している	144	40.0%
9 ハイキングなど自然とのふれあいを通した健康づくりを行うことで、生物多様性や自然環境の保全に対する理解を育んでいる	93	25.8%
10 食材を購入する際は、できる限り地元で生産された農産物を選び、地域の農林水産業の振興に貢献している	160	44.4%
11 食材を購入する際は、低農薬など、環境負荷の少ない農産物を選ぶようにしている	144	40.0%
12 取り組んでいることはない	9	2.5%
13 その他（次の設問で具体的に記入してください）	7	1.9%
合計	360	



問2-2 問2-1で「13」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・コンタミ防止を目的とした70%エタノールでの除菌
- ・環境問題に取り組んでいるボランティアに参加している
- ・基本的にはペットや野生動物には近づかないようにしている。
- ・エレベーター、エスカレーターは使わない。車使用時アイドリングはしない。野生動物の生息地には足を踏み入れない自然環境を守る。
- ・ワンヘルスと設問の関連性がすっきり入って来ない。ワンヘルスとSDGSが近いものであるならば、双方向から責めたほうが理解しやすい。
- ・環境保護のために人が立ち入ってはいけない場所には立ち入らない。野草や草花をむやみに採取しない。
- ・これからもできる範囲で予防したいと思います。
- ・繰り返し、効果的な対策を伝えていただきたいです。
- ・散歩中に私物は捨てないよう心掛けている
- ・期限切れの薬は処方箋薬局に持参し、処分をお願いしています。環境に配慮できればと行なっています。

問3 「ワンヘルス」について、これまでの設問以外に意見がありますか。

選択肢	回答数	割合
1 ある	50	13.9%
2 特にない	310	86.1%
合計	360	100%

(主なご意見)

【ワンヘルスについて、全般的なことについて】

- ・新しいキーワードや重要なキーワードは、根付くまでCMなどもよいかと思えます。
- ・サーズ マーズ ワンヘルスなど初めて知りました・ペットなどに関心がないので 県政 市政だよりなど見過ごしていたのかも?と思っています。今後 関心を持っていきたいと思っています。
- ・この取り組みを全く知らなかった。県だけでなく政府をはじめとする他の公共団体や私企業とも連携し、取り組みをしていることとその意義をもっと積極的にアピールしていかないと絵に描いた餅状態になってしまうことを危惧する。
- ・さまざまな問題が複合していて理解しにくい。もっと論点を絞ったり問題を重点化したりするなどして、内容を明確化するとともに施策や取組が県民にも理解しやすくする必要があると思われる。特に環境対策に含まれる部分は区別するほうがよいのではないかと。
- ・SDGs 教育の一環として学校、家庭で教えればよいと思います。
- ・私はワンヘルスについて知識不足でこの現状に驚きました。これから勉強していこうと思いますが、県としてはワンヘルスに対してどのような対策をしているのかまた今後取っていくか知りたいと思います。
- ・「ワンヘルス」について具体的なことは知りませんでした。福岡県における「ワンヘルス」の対策を見ると普段から取り組んでいることが多くありました。やはり住民の皆さんが「ワンヘルス」という共通認識をもって取り組めば、十分効果が期待できると思います。
そのためには、具体的に取り組む事例などをもっと積極的に広報を行い、イベントなどで知らしめより多くの体験を通じて認識してもらうことが大切だと感じています。
- ・「ワンヘルス」として、別の枠組みで、考える必要があるのか。動物、植物、自然の保護、環境問題など、いろんな要素を含んでいるような気がするので、少し、疑問に思った。
- ・凄く良い取り組みだと思うので賛同するし、多くの人に知って欲しい。
- ・人も動物も同じ地球に住んでいるから共存共栄しないといけないが、我々人間が利己的に今まで地球を破壊してきたので動物は被害者。
皮や角をお金のために搾取したりして今はそのつげが人間に回って来ていると思う。
- ・人類にとって新興感染症との闘いは今後も最重要な問題の一つであり、更なる研究と対策、対応が出来るように全人類で自分ごととして考えていくこと必要だと思います。なのでまずは認知度向上が急務だと思います。
- ・人と動物の感染対策だけではなく環境、衛生、農林漁業等、様々な分野をカバーする啓発、活動に共感する。九州は鳥インフルエンザ、豚熱など食肉についても感染が心配されるところで、このような考え方に基づく対策窓口があることは福岡県民として有用な施策の一つであると思う。

【感染症について】

- ・カビからペニシリンを発見し抗生物質としたことでヒトは非常に長寿になった。引き換えに、自己治癒力の要である免疫力の低下を招いていると感じている。今後、社会の無菌化が進む中で免疫力や耐性の低下は、新ウイルスの出現に対して脆弱になることを危惧している。
- ・ハトが糞を作った場合、鳥獣保護法により容易に撤去できないと以前聞いたことがあります。また、イタチ等も同様と認識しておりますが、これらの動物は、細菌をばらまく恐れがあるため、保護ではなく数を減らせるようにすることで、感染症拡大の防止につながると考えます。

【薬剤耐性について】

- ・問9の3にある抗生物質の使用について。日本人は他の国の人以上、薬が好きで国民だと聞いたことがあります。薬のテレビCMが多いのがその証拠らしいのですが、消費者も必要以上に欲しがらないことが大事だと思います。そして処方されたら、医師と薬剤師の指示を厳守することが必要だと思います。
- ・抗生物質の乱用による薬剤耐性菌の出現については、根深い問題であると思う。軽い風邪症状や鼻炎等でも当たり前のように抗生物質が処方され、患者の判断で断薬されてしまう現状は、行政が介入してでも改善していく必要があると思う。
- ・県内の診療所などの医療機関でのPRを強化してください。風邪なのに抗生剤を処方している医師も居られます。一般的に医師のワンヘルスの認識は薄いと感じています。
- ・薬剤耐性菌とはなんですか？また抗生剤を飲みきらないと薬剤耐性菌が発生しやすくなるのですか？こどもが病気にかかったとき良く抗生剤が処方されるのですが、絶対に飲みきらないといけないのですか？

【環境保全、地球温暖化対策などについて】

- ・今後地球温暖化を食い止めるために、これ以上の便利すぎる暮らしを見直す。特に電力の消費を極力減らす活動に取り組む。1日1時間テレビを早く消す。エアコンの使用を1日1時間ほど無理ない範囲で減らす。などの対策も必要と感じます。
- ・問9の設問の4で「移動の際はできるだけ公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献する」とあるが、そもそも地球温暖化が二酸化炭素排出のせいだとする、二酸化炭素が犯人だと言う定説は科学的根拠の湾曲があるようです。その理由として19世紀の産業革命以降に二酸化炭素排出量が増えて地球温暖化が進んだと言う事になっているが、産業革命以前の気候変動のデータを見ると過去にも地球温暖化になっており気温上昇後に二酸化炭素濃度が高くなっている。これは、太陽の活動の影響が地球に気候の変動をもたらしている事を示しているようです。よって、現代社会は地球温暖化ビジネスにより経済的損失を被ることになり、温暖化対策に無駄な労力やお金を使う事で貧困になって行くようである。
- ・人の生活自体をもっと見直さないといけないと思う。SDGsにもつながるが、電力の無駄使い、廃棄食品軽減、再利用等をもっと活性化すべきと思う。
- ・自然環境を守ることが大事。登山や里山歩きが好きで自然の中によく出かけますが、歩きやすいように、また事故を防ぐようにとの配慮でしょうが、自然を壊して整備されていることがあります。できるだけ自然のままに残して登山者のほうが用心して山に入るべきだと思っています。
- ・地産地消、低農薬はすごく魅力的で、子どもがいてすごく利用したい！と思ったこともあります。現実的に育児中の仕事をしていない授乳期、経済的にも厳しい中で買うには高いものばかりです。子どもにはいいものを食べさせてあげたいですが、子育て世帯への経済支援がない中で消費税もあり、手が出せません。環境に優しいのは大切ですが、経済的に厳しい世帯は環境に優しくなれません。
- ・「自然と共生」が便利な言葉に成り下がり、自然と共生する生活を強制させられる世の中になりつつあると思います。利便性を非常に低下させ、放置してある自然と暮らさざるを得ない環境は「共生」とは言えないと思います。私の通う伊都キャンパスがその例です。利便性を追求すると非難される時代になってきており、それはおかしいと感じています。

【愛玩動物、野生動物などについて】

- ・近くの山は、頂上までほとんど杉林ですが、ここ何年かで所々に広葉樹林や低木の実がなる木が植えられるようになりました。これは、イノシシやサルなどが里まで下りてこないようにするためのものと聞いています。共生するための一つの知恵だと思います。
- ・動植物の不適切な扱い（虐待、乱獲など）ができない世の中にしてほしい。罰則だけでなく、その背景も含め検討対応してほしい。もちろん、何が「適切」なのかは常に考えなければならないと思う。
- ・犬や猫などのペットの増加、野生動物が人間が住む場所へも頻繁に出てくる事、家畜も含めて共存している状況が、今後はより濃くなると予想しています。それに比例して、様々な危機感を知り、日常的に気をつけて生活していかなければいけないことを自覚していく必要があると思います。

【安全な食品、農林水産物などについて】

- ・野生動物を食する時は、許可された食品を、店舗で買う
- ・遺伝子組み換え作物が気になっている。減農薬などもふくめ、遺伝子組み換え作物だから、農薬が要らない、となってしまうまいや、食物の原種を大事にすることも力を入れてもらいたい。また、家庭菜園を作ることを日常に感じられるよう、小学校での作物の観察や栽培を含める食育も大事だ。